

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年6月5日

予報期間：6月7日～7月6日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

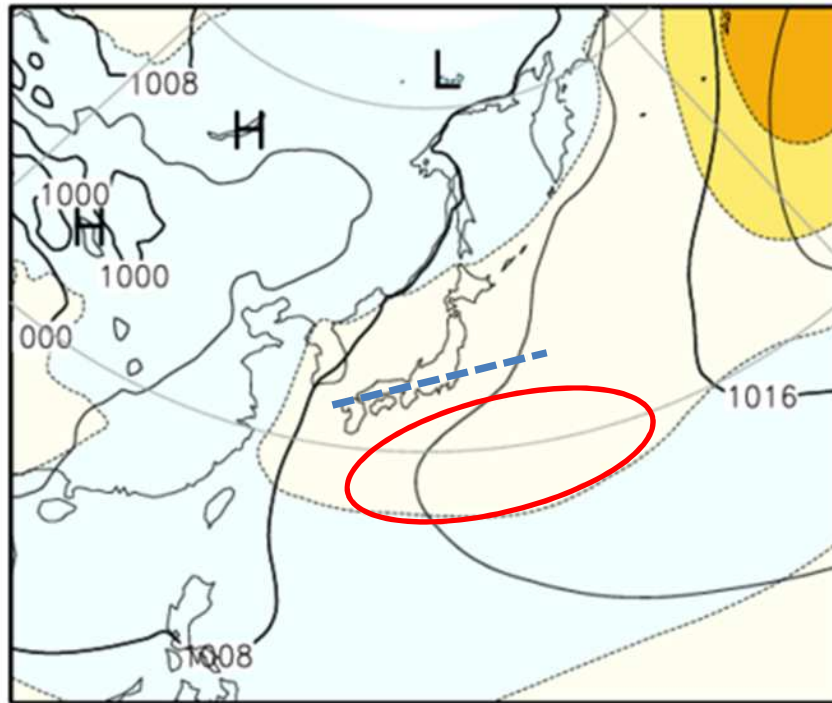
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 30:30:40	40:30:30 40:30:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 30:30:40	40:30:30 30:40:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 30:30:40	30:40:30 30:30:40	
沖縄・奄美		10:30:60	40:40:20	20:30:50	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
沖縄・奄美	10:30:60	20:40:40	20:40:40

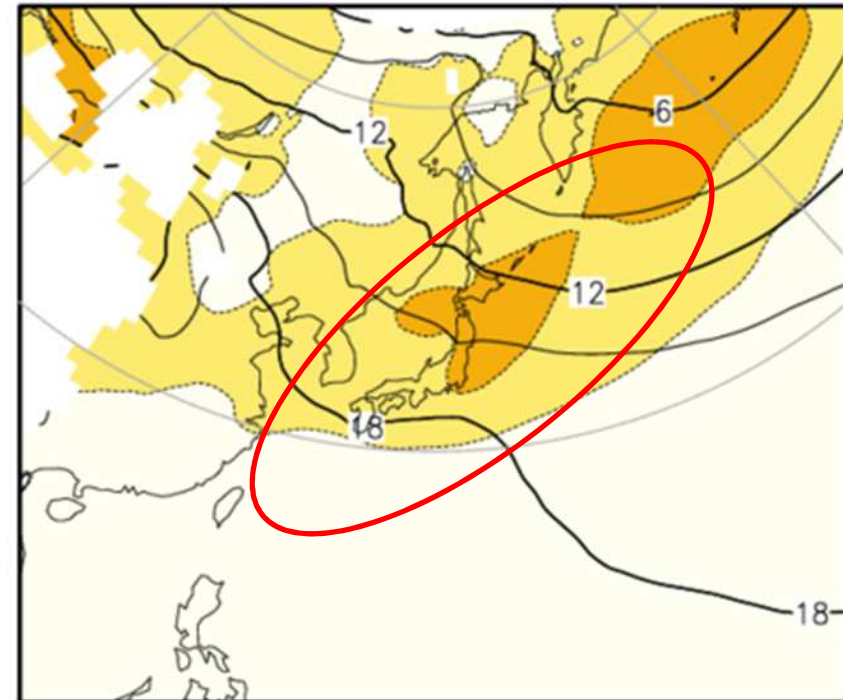
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。北・東・西日本では、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込みです。

海面気圧(1か月)



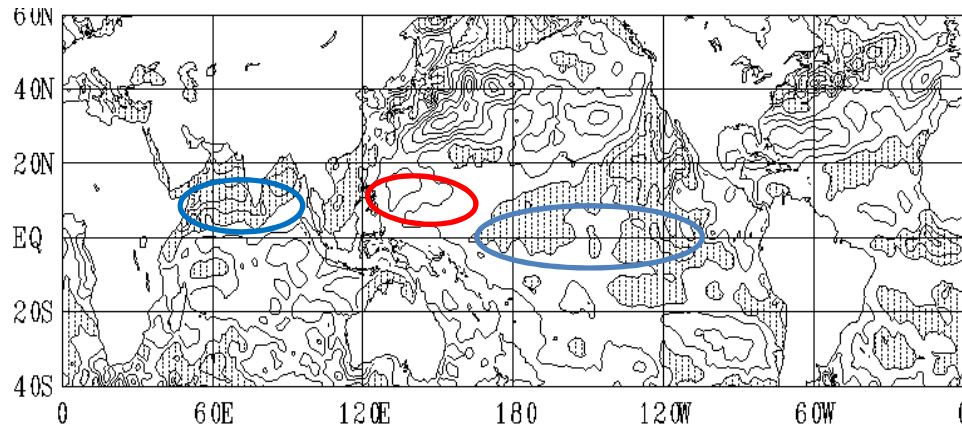
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の南から東にかけて太平洋高気圧が強く予測されています。また、その北の東・西日本付近には、梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれが予測されています。北・東・西日本では、太平洋高気圧の縁を回って湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発となる時期があるでしょう。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいでしょう。

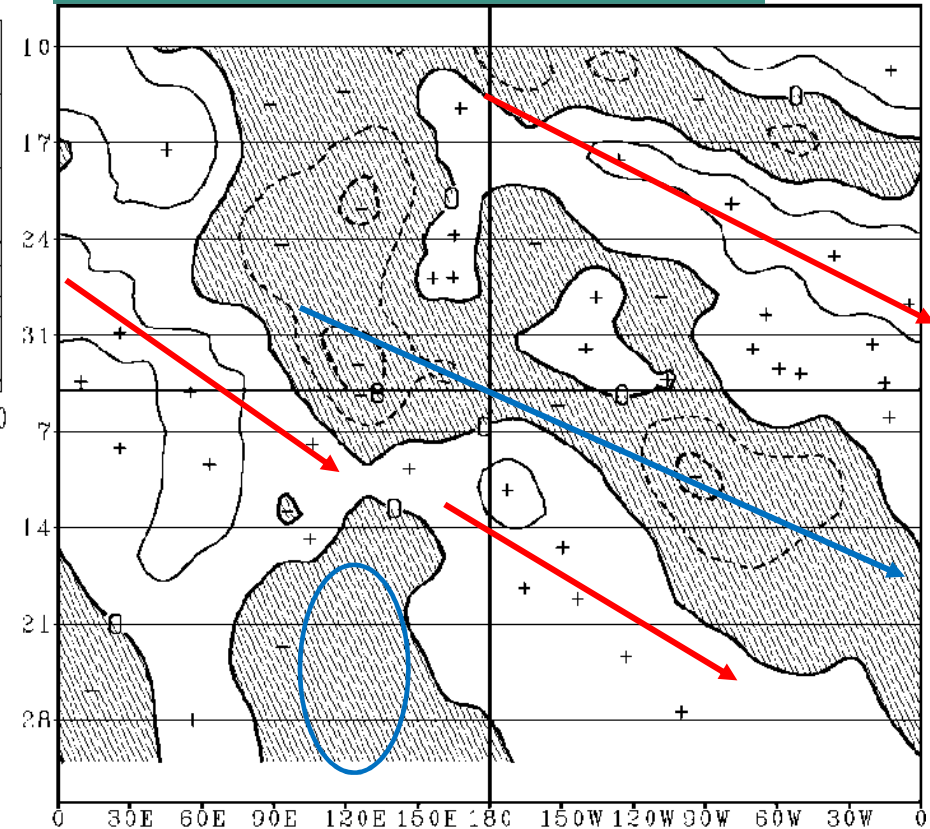
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



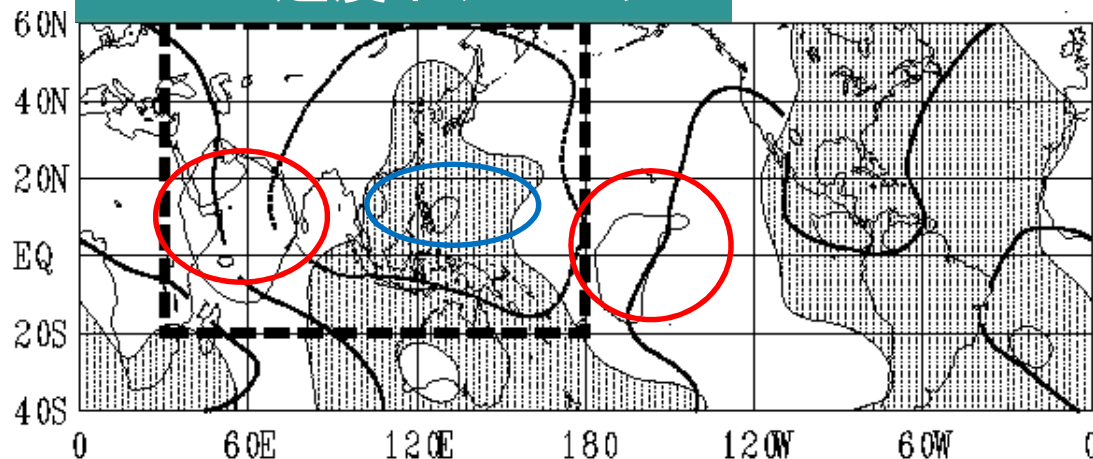
熱帯域では、太平洋中部で負偏差、アラビア海からベンガル湾にかけて負偏差、フィリピンの東で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



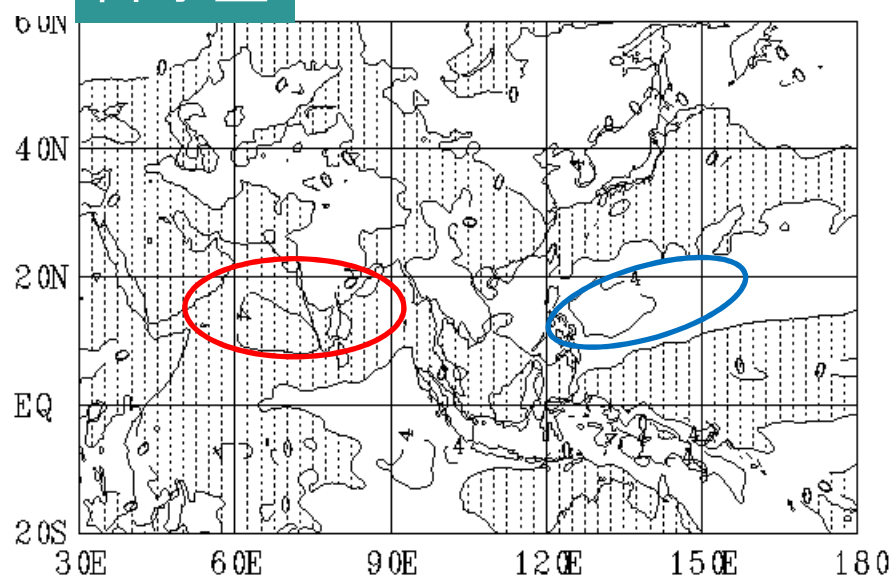
実況から2週目にかけて、収束偏差域がインド洋から太平洋にかけて、発散偏差域が太平洋から大西洋にかけてそれぞれ東進。2週目以後、インドネシア付近で発散偏差。

200hPa速度ポテンシャル



熱帯域では、アラビア海からベンガル湾にかけて上層収束偏差の一方、南シナ海からフィリピンの東海上にかけて上層発散偏差。太平洋中部では上層収束偏差。

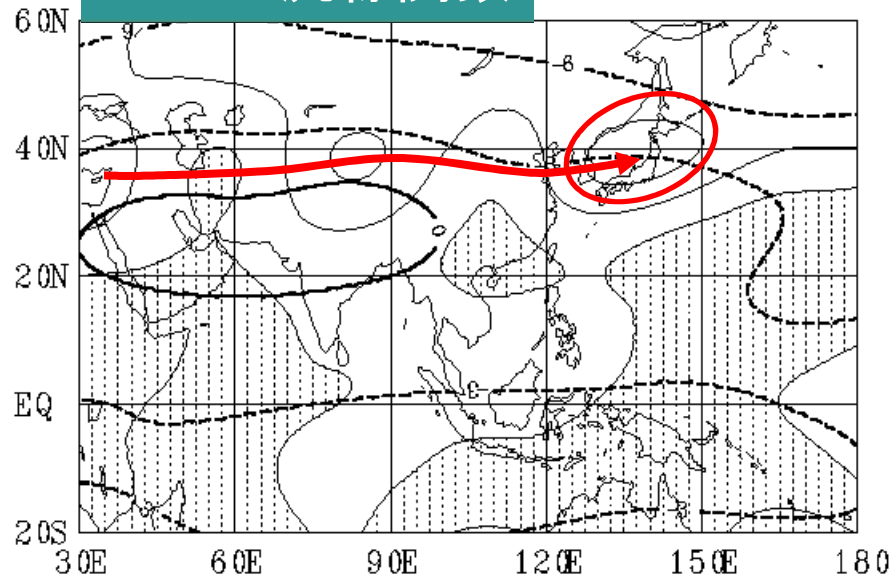
降水量



アラビア海からベンガル湾にかけて少雨偏差の一方、フィリピンの東海上で多雨偏差。夏の熱帯季節内変動(BSISO)とSST偏差の影響がある。

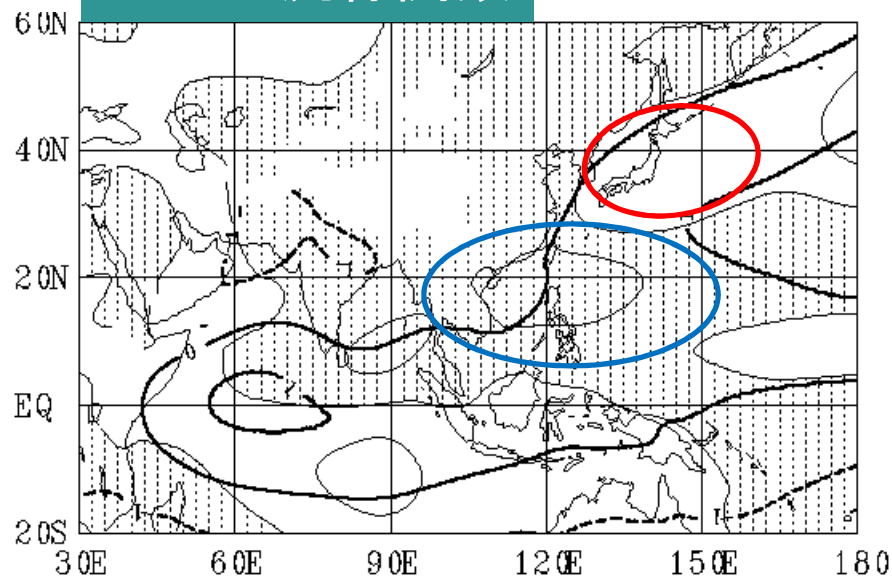
予報資料の解釈 1か月(6/7~7/4)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播が明瞭で、その一環として、日本付近は高気圧性循環偏差で偏西風が北偏。

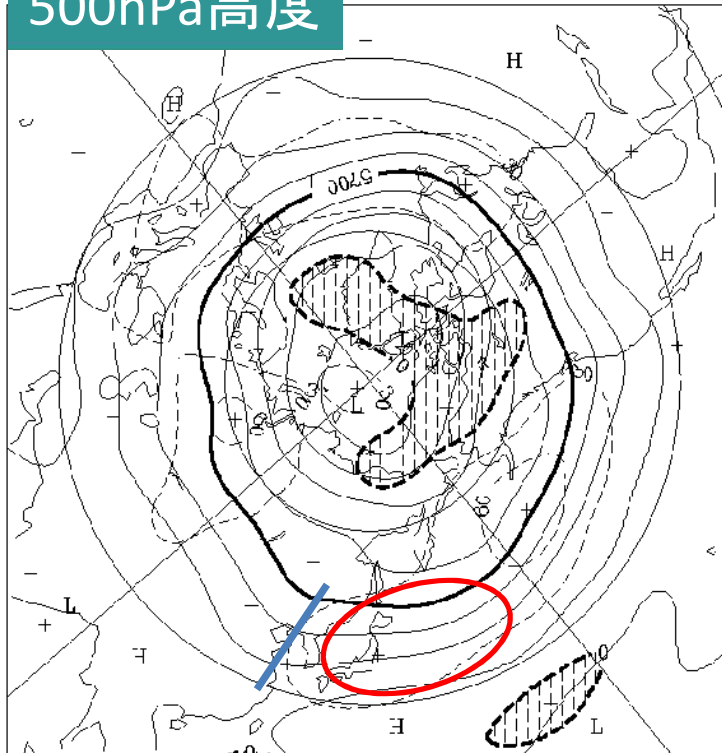
850hPa流線関数



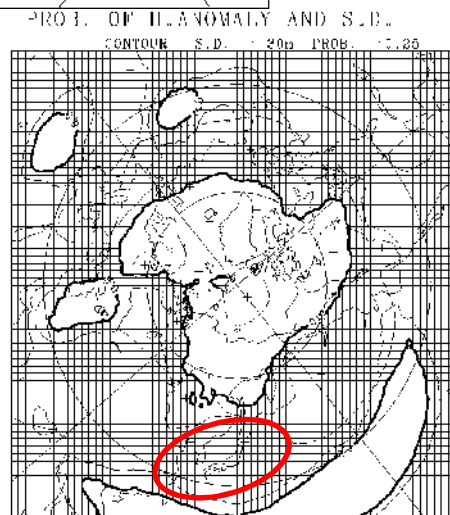
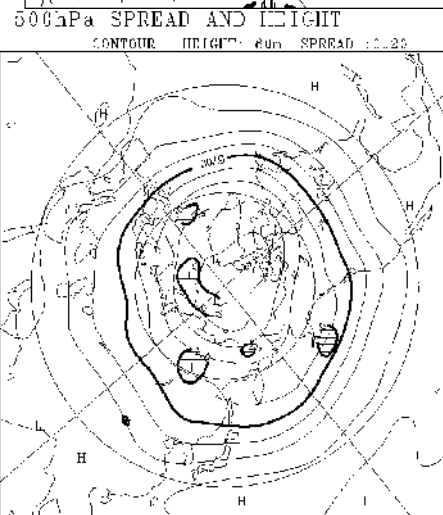
熱帯の対流活動に対応して、南シナ海からフィリピンの東海上にかけて低気圧性循環偏差。また、日本付近で高気圧性循環偏差。これらの偏差パターンは、太平洋-日本(PJ)パターンに対応。

予報資料の解釈 1か月(6/7~7/4)

500hPa高度



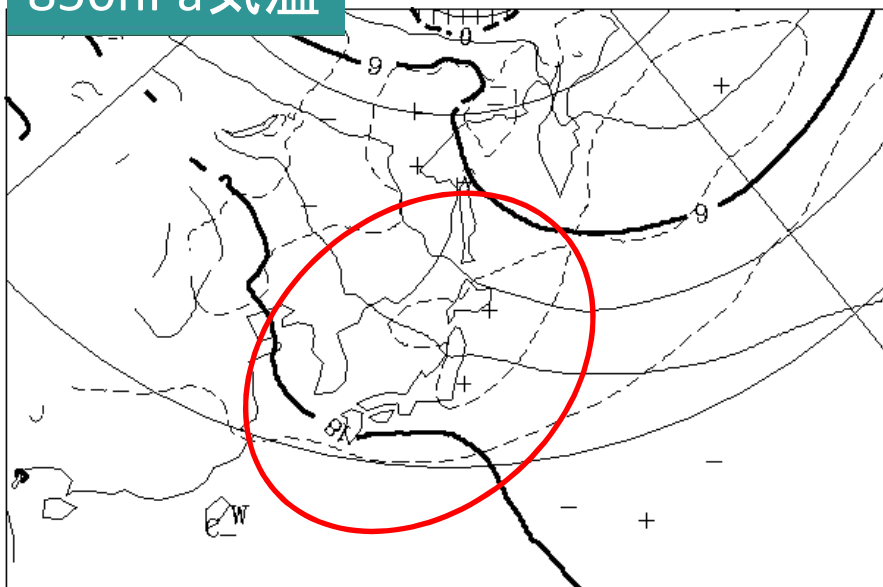
日本を含み、北半球中緯度帯で強い正偏差。黄海付近にトラフがある一方、日本の東でより高度が高く、40度帯では西谷が平年より深い。



日本を含む広い範囲で正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。

予報資料の解釈 1か月(6/7~7/4)

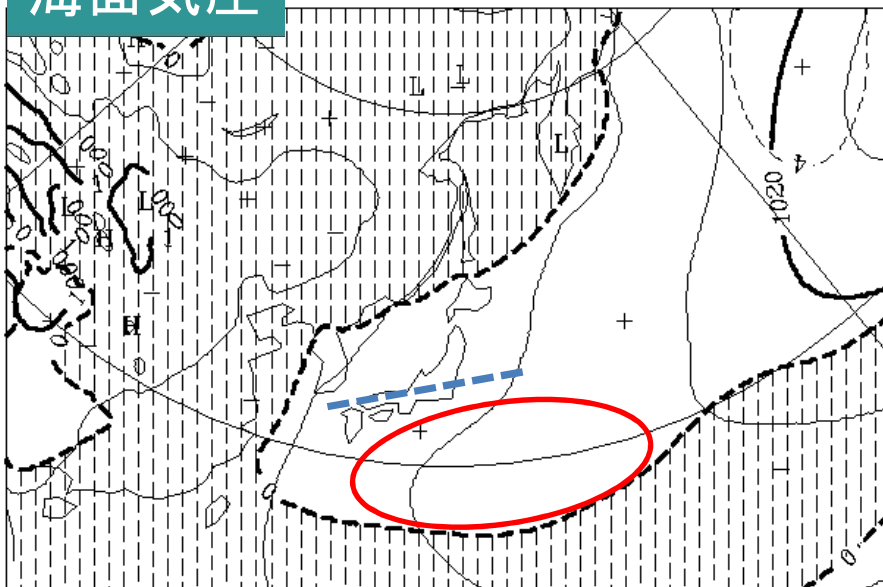
850hPa気温



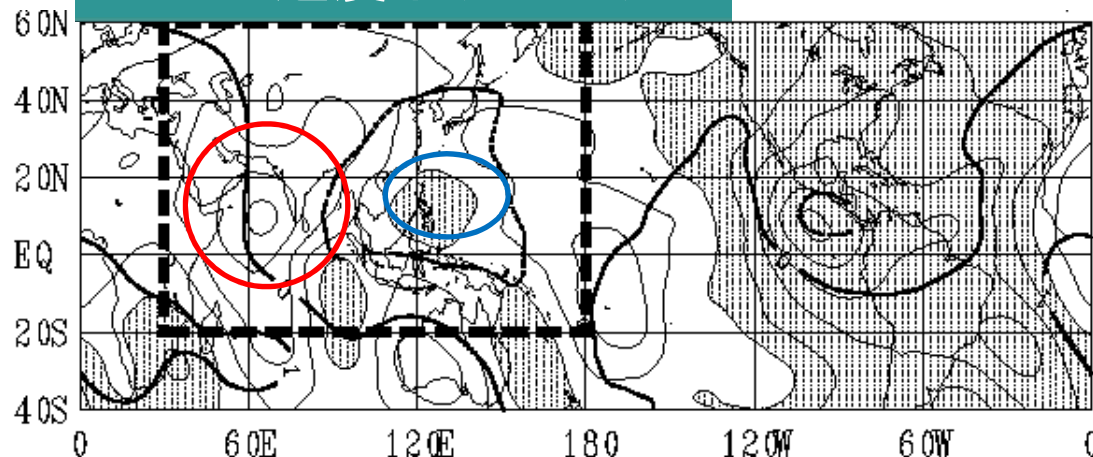
日本付近は北日本を中心に全国的に正偏差域に覆われる。

日本の南から東にかけて太平洋高気圧が強い。また、その北の東・西日本付近には、梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれが予測されている。北・東・西日本では、太平洋高気圧の縁を回って湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発となる時期がある。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすい。

海面気圧

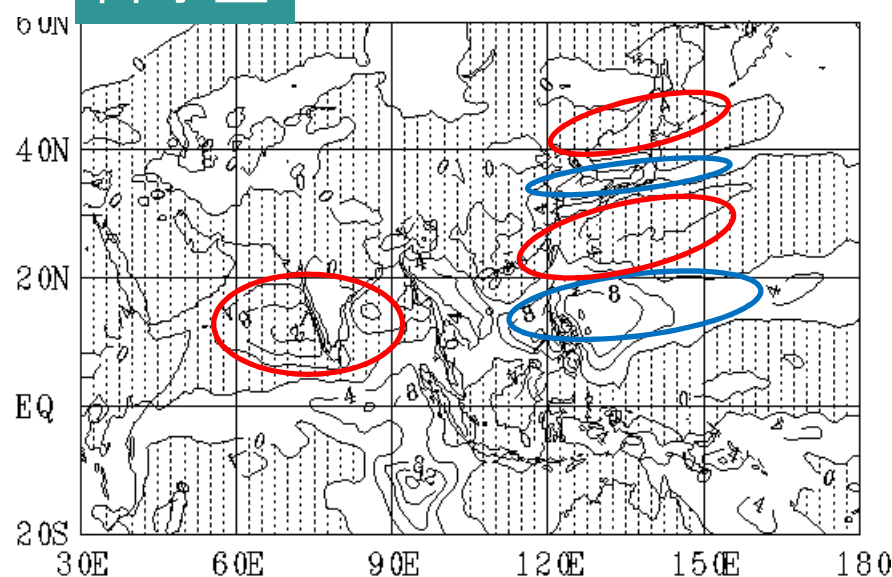


200hPa速度ポテンシャル



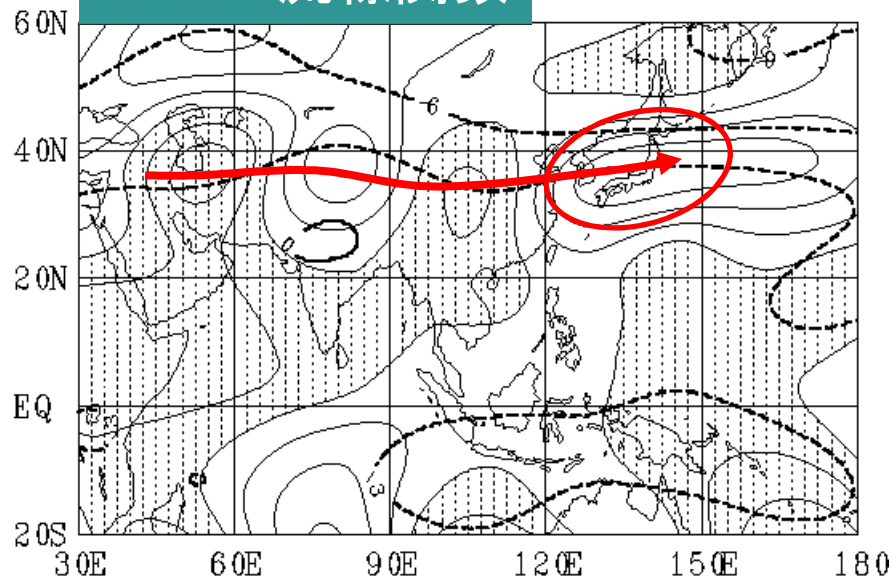
アラビア海からベンガル湾にかけて上層収束偏差、フィリピン付近で上層発散偏差。

降水量



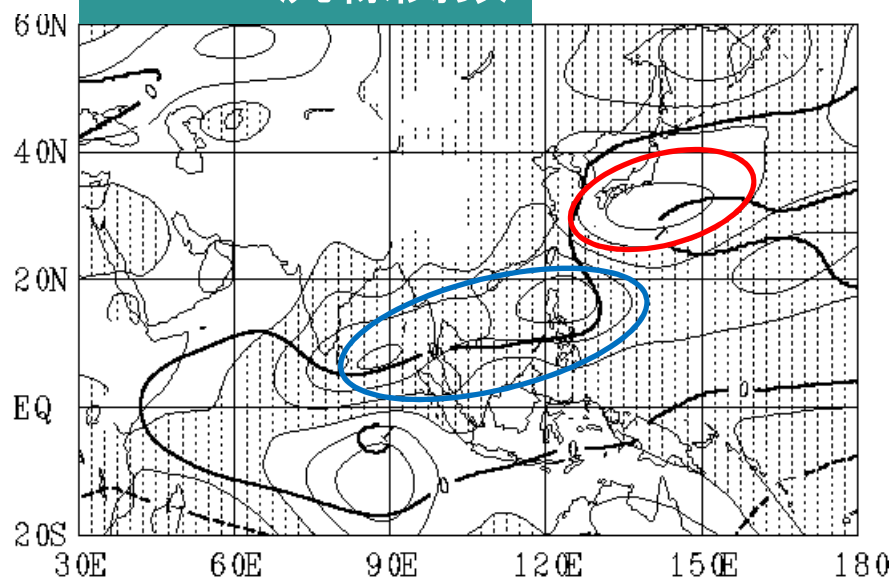
アラビア海からベンガル湾付近にかけて少雨偏差。南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて多雨偏差。夏の熱帯季節内変動を反映。日本の南で少雨偏差、東・西日本付近で多雨偏差。太平洋高気圧の強まりと梅雨前線の活発化に対応。北日本では少雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播が明瞭で、その一環として日本付近は高気圧性循環偏差。

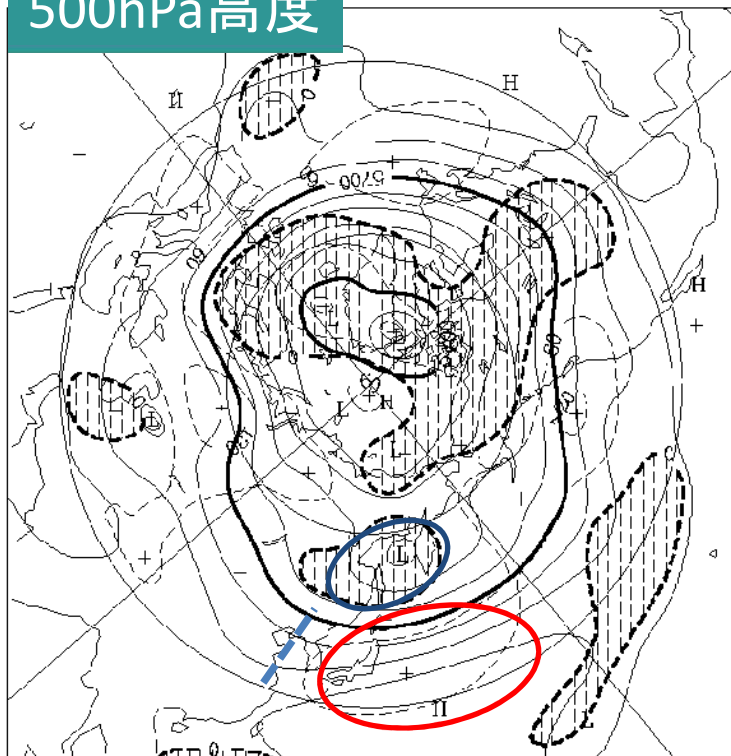
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、ベンガル湾からフィリピンの東海上にかけて低気圧性循環偏差。日本付近は高気圧性循環偏差で、偏差の中心は本州の南で、上層の高気圧性循環偏差の中心より南。高気圧性循環偏差の鉛直構造は等価順圧的だが、やや北に傾いており、偏差が強まりやすい構造。

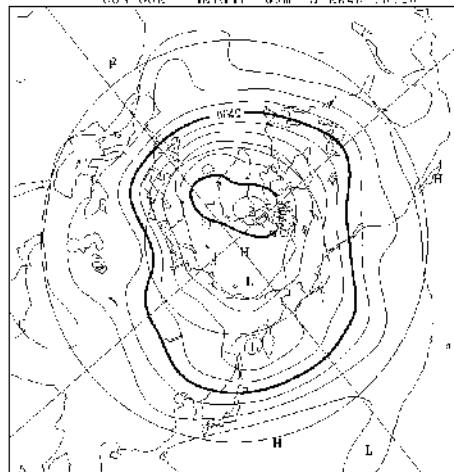
予報資料の解釈 1週目(6/7~6/13)

500hPa高度



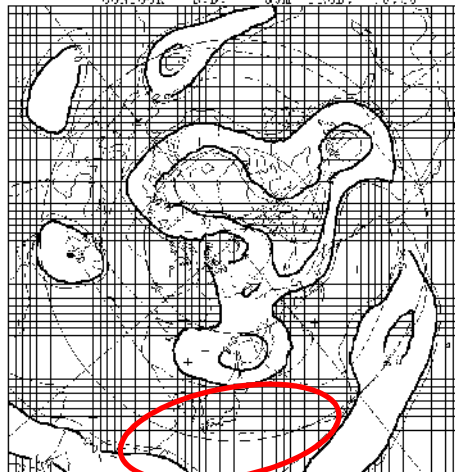
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20



PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 30% PROB.: 0.25

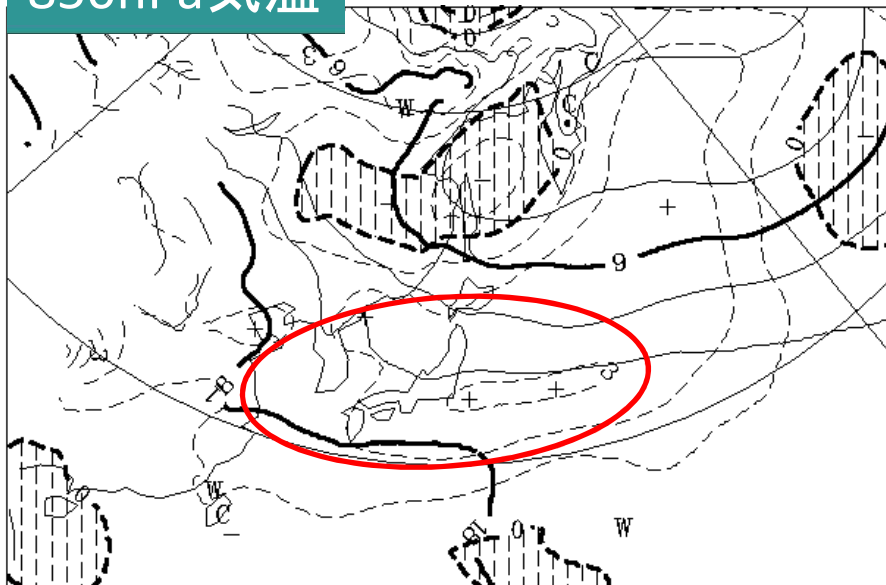


日本付近は正偏差で偏差の中心は日本の東。黄海付近にトラフで日本付近は西谷。オホーツク海付近に負偏差域があり、北日本付近では偏西風が強い。

日本付近は広く正の高偏差確率75%以上の領域に覆われている。

予報資料の解釈 1週目(6/7~6/13)

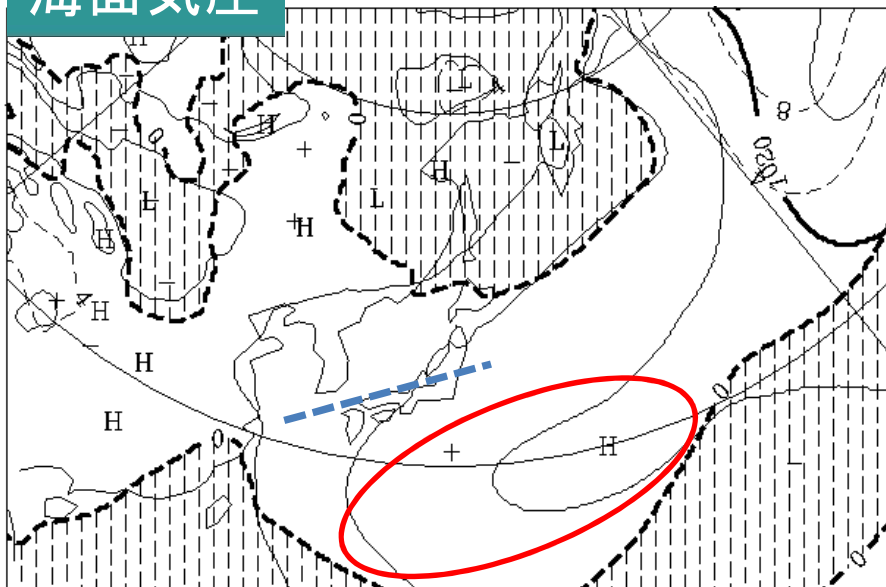
850hPa気温



日本付近は強い正偏差域に覆われている。

日本の南で太平洋高気圧が強い一方、梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれが東・西日本に予測されている。太平洋高気圧の縁を回って、梅雨前線帯に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

海面気圧



想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本太平洋側と西日本では、前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

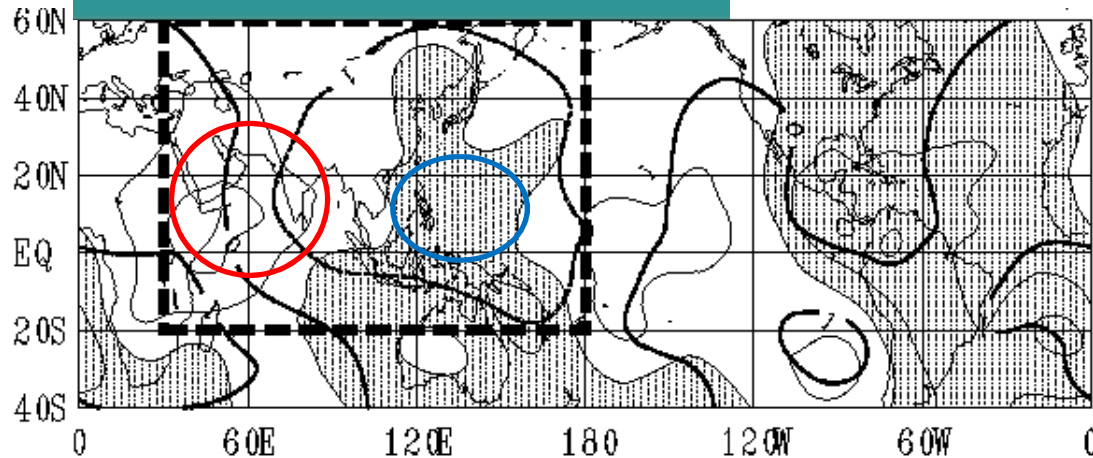
<気温>

全国で高温で、かなりの高温となる所もある。

<天候>

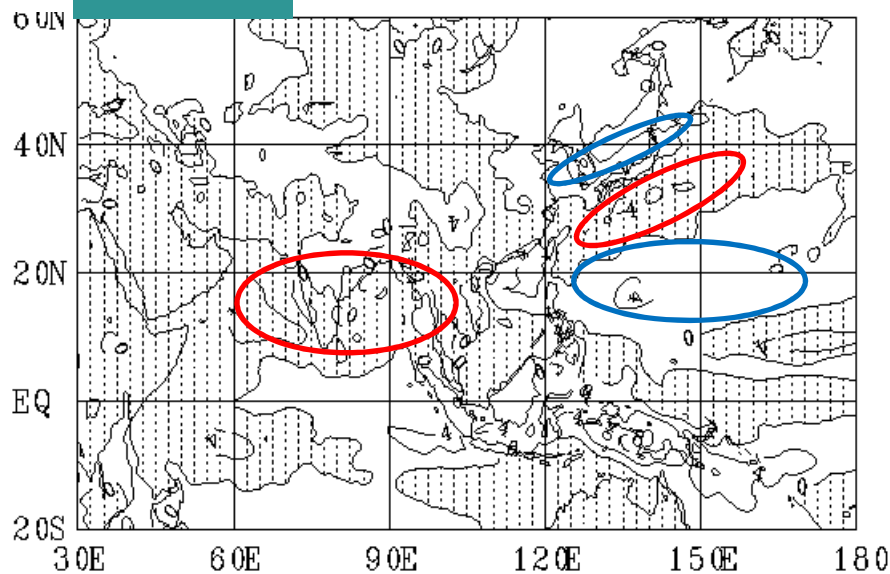
- ・ 北日本では、低気圧や前線の影響が弱いため少雨傾向。
- ・ 東日本日本海側では平年と同様。
- ・ 東日本太平洋側と西日本では、前線の影響を受けやすいため、多雨傾向で寡照傾向。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、少雨傾向で多照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



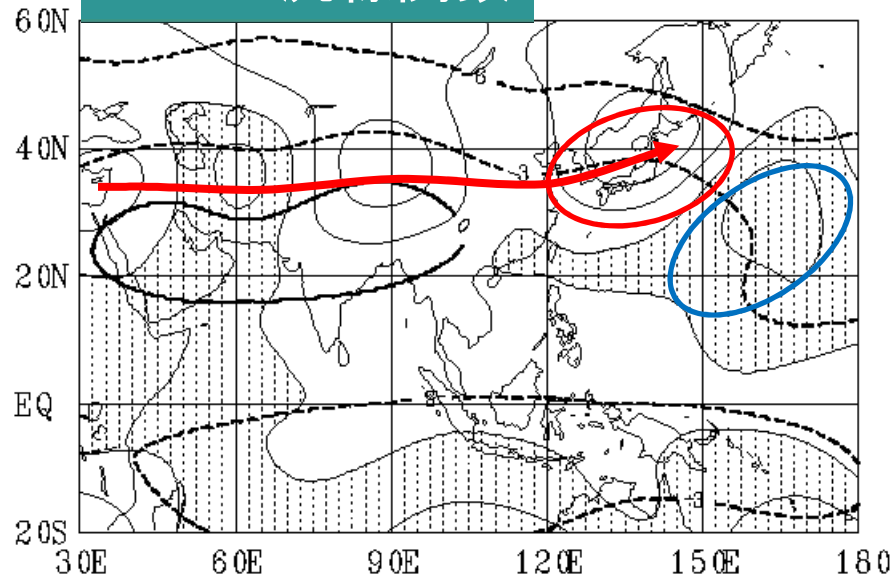
フィリピンからその東海上にかけて上層発散偏差、アラビア海からベンガル湾で上層収束偏差。

降水量



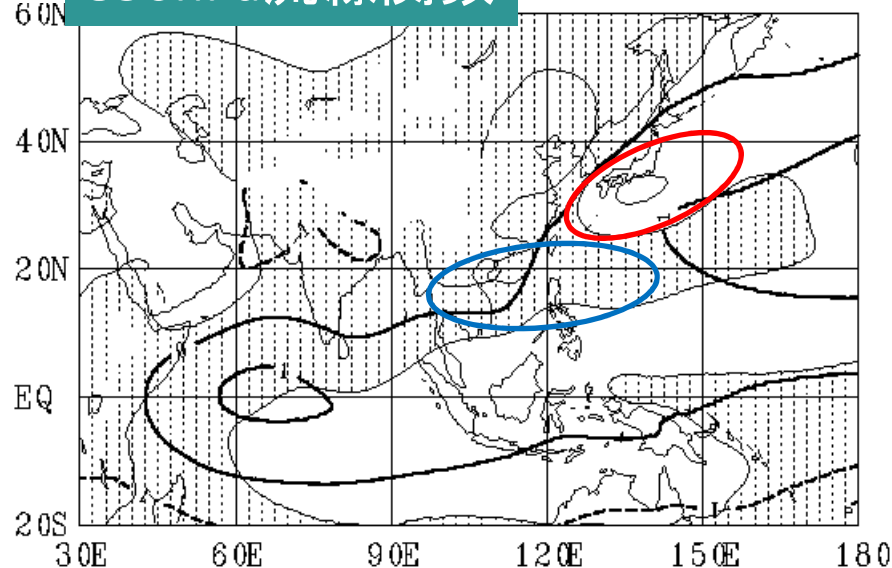
アラビア海からベンガル湾にかけて少雨偏差、フィリピンからその東方海上にかけて多雨偏差。日本の南で少雨偏差、北日本で多雨偏差だが、梅雨前線帯の北上バイアスに留意。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播が明瞭で、その一環として日本付近は高気圧性循環偏差。一方、その南東は低気圧性循環偏差で、ロスビー波の砕波を示唆。

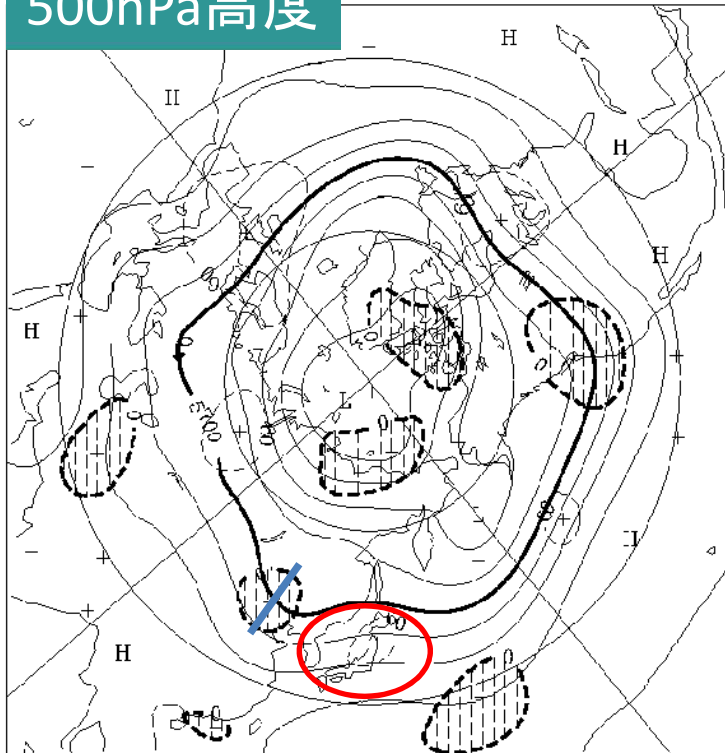
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、南シナ海からフィリピン東方海上にかけて低気圧性循環偏差。日本付近は高気圧性循環偏差でその中心は本州の南で、上層の高気圧性循環偏差の中心より南。高気圧性循環偏差の鉛直構造は等価順圧的だが、やや北に傾いており、偏差が強まりやすい構造。

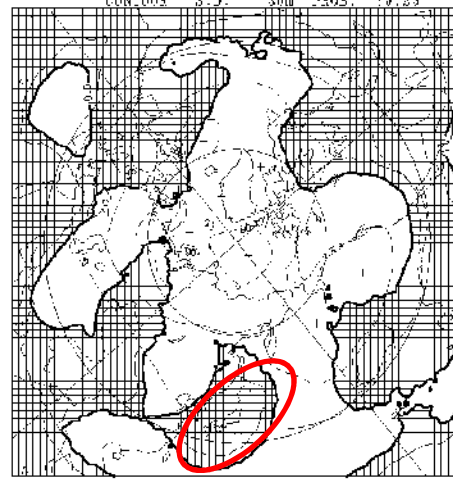
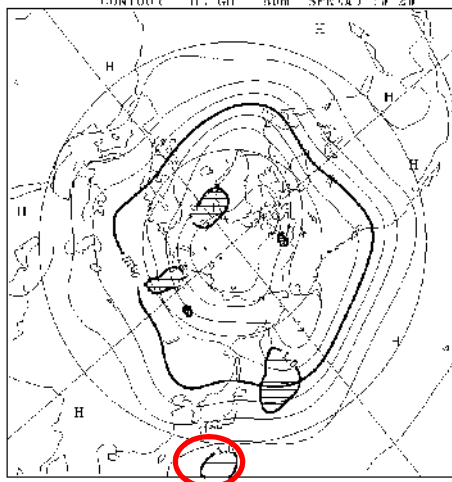
予報資料の解釈 2週目(6/14~6/20)

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT

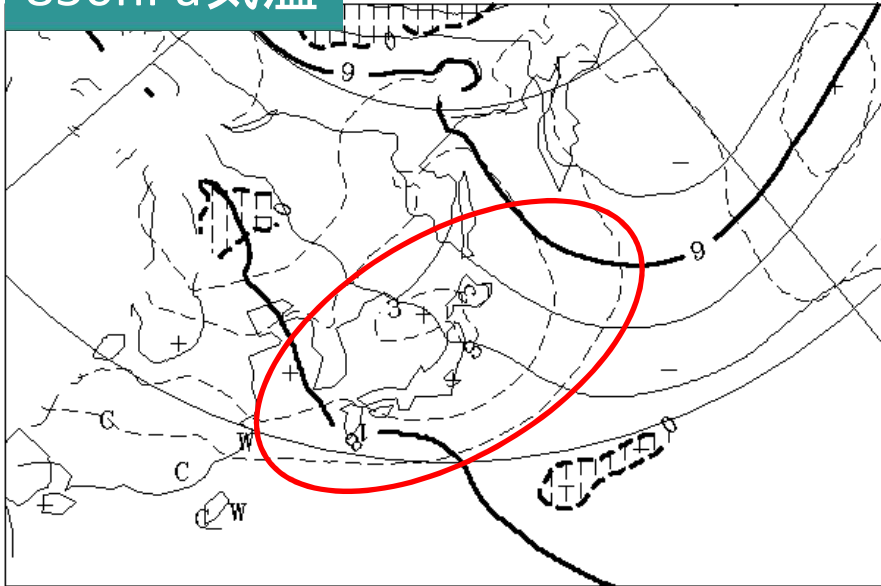
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



日本付近では、リッジで正偏差で、偏西風が北に蛇行して流れる。また、華北付近は負偏差でトラフ。

日本付近は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。正の高偏差確率のパターンは、日本付近の強い正偏差が亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播により形成されたことを示す。日本の南でスプレッドが大きく、熱帯の対流活動に関わる予測の不確実性が大きいことに留意。

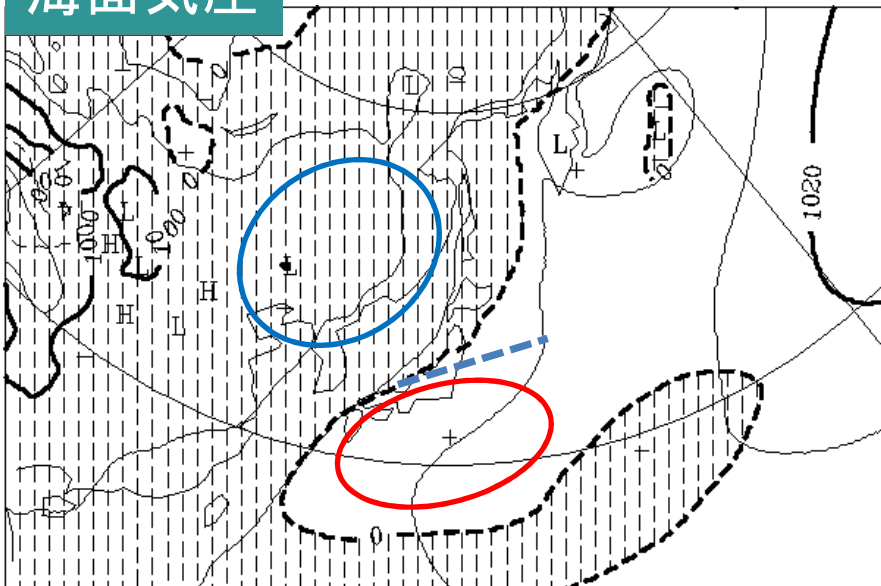
850hPa気温



日本付近は北日本を中心に強い、大陸から延びる正偏差域に覆われる。

日本の南から東にかけて太平洋高気圧が強い一方、上層のトラフに対応して、華北付近には低気圧があり、北日本には暖かく湿った空気が流れ込みやすい。梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれは不明瞭だが、太平洋高気圧の北への張り出しを強め、梅雨前線帯の温度や相当温位の南北の傾きを弱く予測するモデルのバイアスに留意。

海面気圧



想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 東日本太平洋側と西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

<気温>

北・東・西日本でかなりの高温、沖縄・奄美で高温傾向。

<天候>

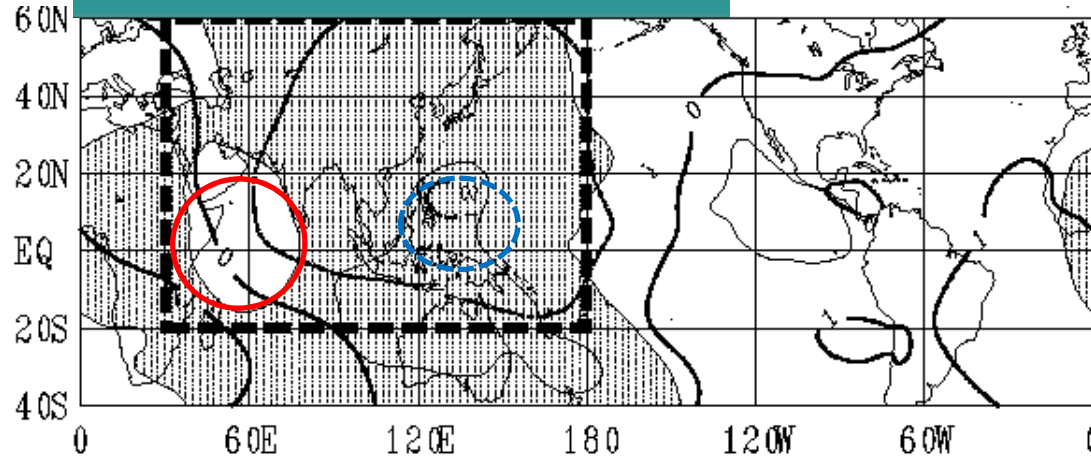
北日本と東日本日本海側では低気圧や前線の影響を受けやすいため、多雨傾向で寡照傾向。

東日本太平洋側と西日本日本海側では、平年同様。

西日本太平洋側は、太平洋高気圧に覆われやすいが、前線の影響等も考慮し、並雨だが多照傾向。

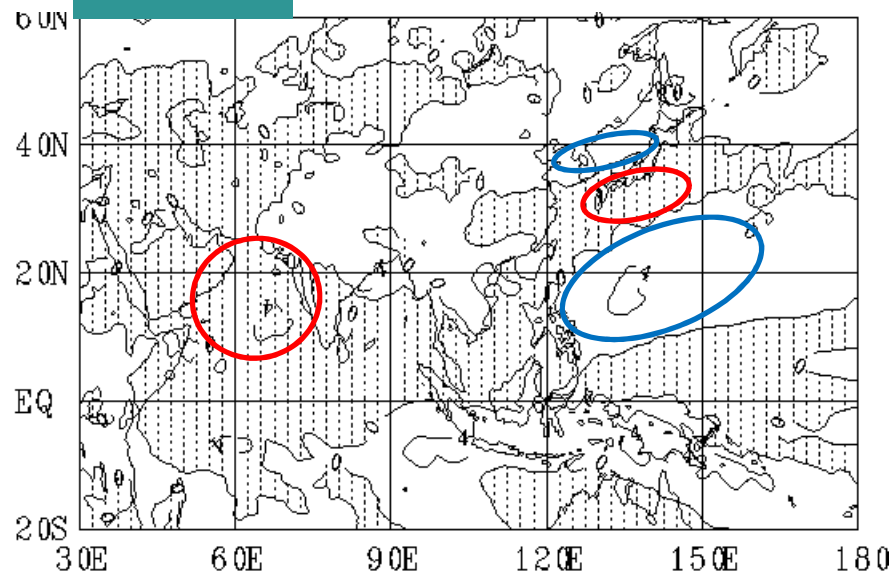
沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われやすいが、熱帯擾乱の影響も考慮し、並雨だが多照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



フィリピンからその東海上にかけて上層発散偏差、インド洋西部の赤道域中心に上層収束偏差。

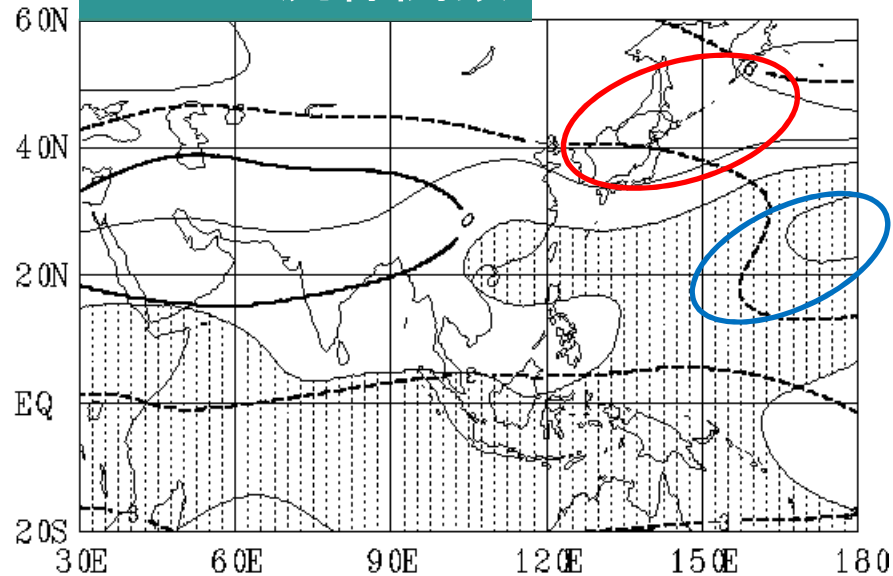
降水量



アラビア海付近で少雨偏差、フィリピンからその東方海上にかけて多雨偏差。日本の南から西日本にかけて少雨偏差、日本海で多雨偏差だが、梅雨前線帯の北上バイアスに留意。

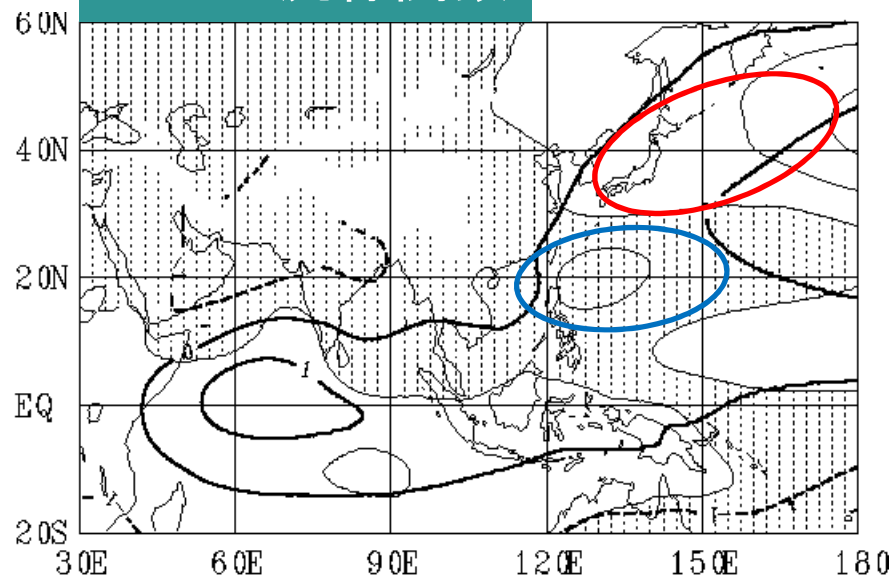
予報資料の解釈 3～4週目(6/21～7/4)

200hPa流線関数



日本付近は高気圧性循環偏差。一方、その南東は低気圧性循環偏差で、ロスビー波の砕波を示唆。

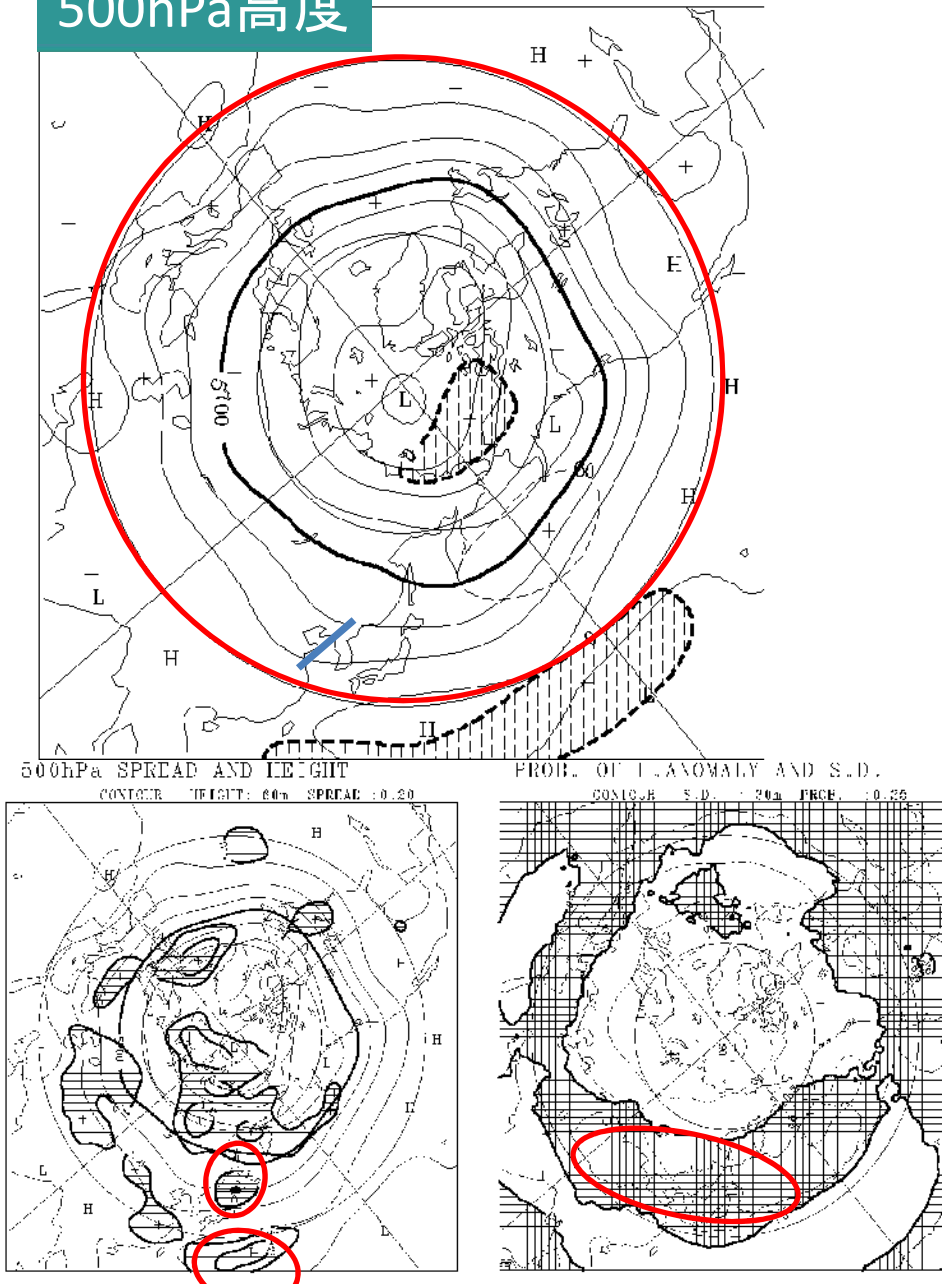
850hPa流線関数



南シナ海からフィリピンの東方海上にかけて低圧性循環偏差。日本付近からアリューシャンの南にかけて高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 3～4週目(6/21～7/4)

500hPa高度

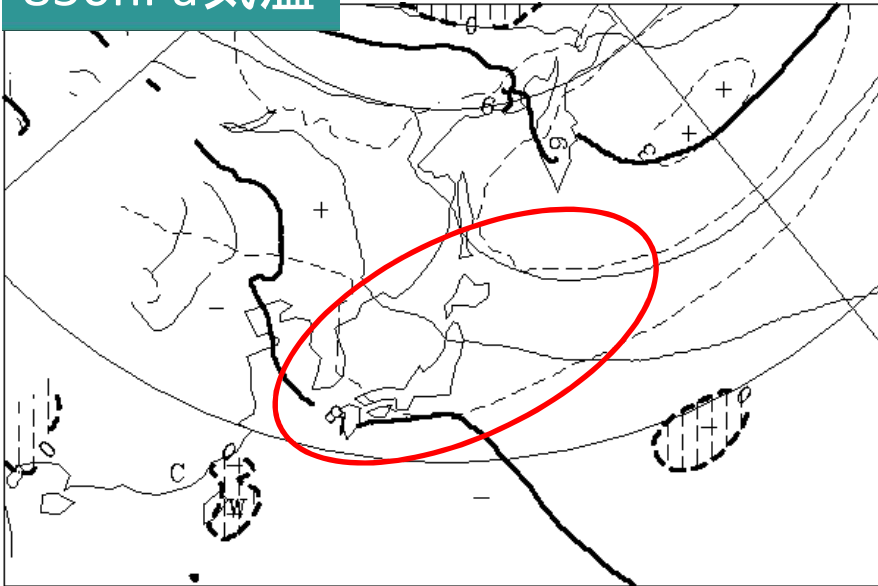


ほぼ北半球全域で正偏差。黄海付近にトラフがあり、日本付近の40° N帯は西谷。

日本付近は、ほぼ全国的に東西帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近とフィリピンの東海上でスプレッドが大きく、熱帯の対流活動と亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播に関わる予測の不確実性が大きいことに留意。

予報資料の解釈 3～4週目(6/21～7/4)

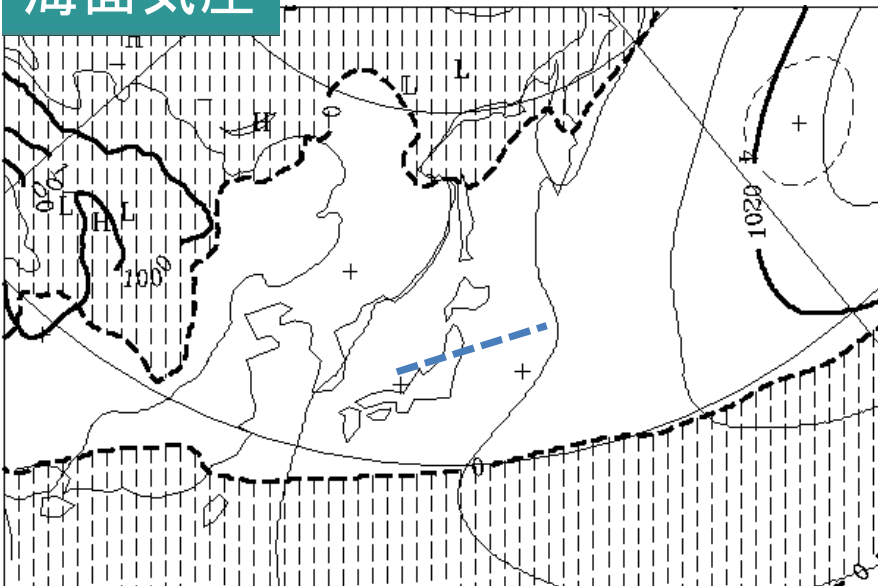
850hPa気温



日本付近はほぼ全国的に正偏差。

明瞭ではないものの、梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれが、北日本付近に予測されている。平年よりやや北に位置している。太平洋高気圧の北への張り出しを強め、梅雨前線帯の温度や相当温位の南北の傾きを弱く予測するモデルのバイアスに留意。

海面気圧



想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

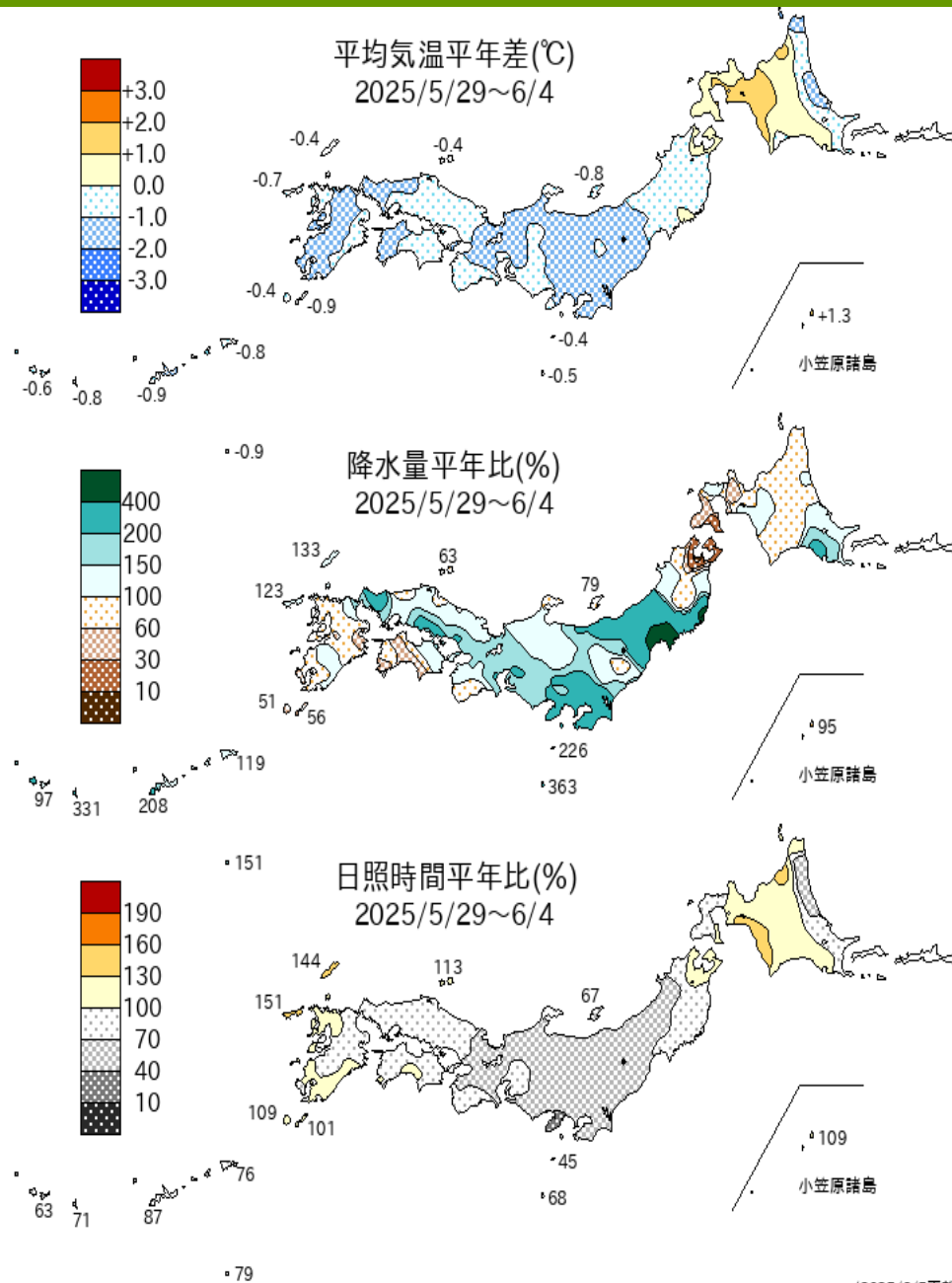
<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本で高温、沖縄・奄美で高温傾向。

<天候>

全国的に平年同様。

最近1週間の天候経過



最近1週間(5月29日~6月4日)は、北日本では天気が周期的に変わりましたが、東・西日本と沖縄・奄美では低気圧や前線などの影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多くなりました。このため、降水量は北海道を除き平年を上回り、日照時間は北海道を除き平年を下回った所が多くなりました。気温は、晴れの日が少なく、また、冷涼な空気に覆われやすかったため、北海道を除き、平年を下回った所が多くなりました。